

第670回番組審議会報告

2022年7月5日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 川瀬慈委員、鯨岡秀紀委員
栗栖義臣委員、津村記久子委員、西村久美子委員、増山実委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田専務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
岸本制作スポーツ局長、末次制作スポーツ局担当局長、
市村スポーツコンテンツ部長、八木プロデューサー、
古平総合編成局副部長、辻井総合営業局エキスパート、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

「スポーツ中継の取り組みについて

～2022年度プロ野球テレビ中継マルチチャンネル編成～」

【審議内容について】

デジタル放送では、1つのチャンネルで2番組（メインチャンネル／サブチャンネル）を同時に放送することが可能で、これをマルチ編成と呼んでいます。例えば、スポーツ中継が予定していた放送時間内に終了しなかった場合でも、メインチャンネルで次の番組を放送しながら、引き続きサブチャンネルでスポーツ中継を並列して放送することができます。毎日放送では6月8日にマルチ編成を実施し、21時以降のサブチャンネルで試合が終了まで放送した以降も21時57分までプロ野球関連番組を制作。スタジオを設けて陣内智則さんなど3人のタレントにより、タイガース関連の番組を放送しました。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *野球中継がいいところでいつも終わってしまうので、このような取り組みがあるのはすごくいいと思う。
- *試合で負けた後にサブチャンネルで引き続きあれだけ明るく放送を続けてくれるのは、負けたことに関するファンへのクッションにもなるのではないか。
- *番組の長さが確定していない中で、いくつかのVTRを用意して、ランキン

グ形式で1位から順に紹介していく形式はよく考えられたうまいやり方だと思った。放送されなかったVTRがどんな内容か気になるので、次回に放送しますと言え、残ったVTRを楽しみに見るリピーターが増えるのでは。

*アナウンサーだけでなくタレントが3人も出て豪華だと思った。新しいタレントの人材育成の場として、どんどん新しい人を試してみたらいいのではないかな。

*サブチャンネルの番組が始まった時に、それまで堅い解説の方たちが野球をずっと放送していて、急にワイプで陣内さんとかが出てきて、バラエティ色が強くなり落差があると思った。

*無理に試合以外の話題でやる必要があるのかと思った。監督とか選手のコメントなどのほうが、本当のプロ野球ファンは喜ぶのではないかな。過去の名場面、珍場面なども懐かしがって見られるのでは。

*バラエティ的なVTRを作る制作能力は、圧倒的に地上波に長年培ったノウハウがある。サブチャンネルで流すVTRは、バラエティの地上波番組の一番の強みが発揮できるところで、野球ファンを逃さず引きつけるために底力を見せられるところではないかなと思う。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

*試合のハイライトや選手の談話をどこまで入れるか、どのタイミングでVTRに乗りかわるか毎回悩んでいる。

*どうしてもプロ野球は、年輩の男性が中心でご覧になるコンテンツなので、新しい視聴者層をどう取り込むかを課題として、模索しているのが実情である。

*試合が終わった後の落差が大きかったという意見は、すごく真っ当なご意見だと思う。もう少しならかな演出ができないか考えていきたい。

以 上